

— “post”つまり「3.11」後の震災復興がテーマということですが、具体的にはどのように貢献しましたか？

小川 貢献といえるかどうかわかりませんが、例えば会期を通じて募金を集め寄付したり、福島の人をこちらのイベントに招いたりとかですかね。あと当然かもしれませんが、震災のことを忘れないようにするとかね。まだ何も解決していないし、終わってすらないことですから。

一井の頭恩賜公園で行われた「オーケストラ TOKYO-FUKUSHIMA!」では、福島から約50名の方を招いて音楽イベントを開催されましたね。その方達を含め総勢200名以上の参加者が一緒になって音楽を奏でる様子は圧巻でした！フライパンや空き缶などを使用する人も見られ、型にとらわれずに自由に楽しく演奏していて、皆さんとても楽しそうでしたね。

● 「オーケストラ TOKYO-FUKUSHIMA!」の様子



— 今回のお祭りに参加されたアーティストの方は、震災に関連した活動をしている人を選ばれたのでしょうか？

小川 特にそういったわけではありません。ただもちろん誰しもが、今回のことで何かしら考えることはあるだろうから、こうしたテーマを出した時にどういう動きをしてくるのかというのを見てみたかったというのではありません。

「面白い作品」とは何か

— 祭りでは、アート作品も多数展示されていましたね。西友のエントランスの柱に展示をされていた浅井さんの作品なんかはとても可愛らしくて好きでした。無地で味気ない柱が華やかになりましたね。

小川 そうですね。浅井君の作品は僕も好きで、僕が主催する Ongoing というアートセンターでも描いてもらったりもしているんですよ。

● 浅井裕介《マスキングプラント》 2011年、マスキングテープ、ペン



— 小川さんとしては今回の展示ではどの作品が一番面白く感じましたか？

小川 どれが一番とはなかなか決められませんが、例えば、和田昌宏さんの《何も持たずに生まれて、何も持たずに死ぬだろう》は良かったですね。あれがPARCOの屋上にあるというのはすごく面白かった(笑)

— 確かにすごく個性的な作品でしたね。大きな檻の中に枝がかけられていて、下には木の葉や木の実が散らばられていて、枝に取り付けられた小型のスピーカーからは耳に刺さるような鳥たちの鳴き声が流れていました。鳥小屋かと思いきや、中に入っているのは綺麗に着飾った三体のマネキンで。

— 和田さんは屋上という開けた空間から鳥たちのフリースペースをイメージしたそうですね。動物園のような人が動物から守られる檻とは異なり、動物が人から守られる檻、つまり“動物は自由だけど人間は不自由な

作品詳細図



● 和田昌宏《何も持たずに生まれて、何も持たずに死ぬだろう》 2011年、ミクストメディア



● タムラサトル《バタバタするTシャツ》 2011年、Tシャツ、アルミ、モータ、チェーン、鉄、他



● SONTON《吉祥寺ガッパ》 2011年、ミクストメディア



空間”をテーマに制作したと伺いました。人間と動物の立場の逆転。好奇心と不安を掻き立てられる奇妙で斬新な作品だと感じました。

— 他にも、タムラサトルさんの《バタバタするTシャツ》や SONTON さんの《吉祥寺ガッパ》など、独創的な作品ばかりで、屋上に上がった瞬間、なんだか異世界に来たような印象を受けました。こういった斬新な作品は好みが変われると思うのですが、小川さんとしては、現代アートが「本当にこれがアートなのか」と言われることについてどう思われますか？

小川 作家が考え抜いた結果、言葉では容易に捉えられないものが生まれてしまうことがある。見た人があれ何だったんだろう？とずっと思い続けるような表現です。僕はむしろそういったものこそ面白く感じてしまうんです。

町のオリジナリティー再生へ向けて

— 地域とアートの関係性についてもお話を伺いたいです。TERATOTERA 祭りで行われたシンポジウム「TERATOTERA FORUM the second term ～震災-地域-再考～」では、吉祥寺という町が“都市から都会化”してきたために衰退してきている、というお話をされていましたが、昔の吉祥寺は今とどう違っていったのですか？

小川 昔は吉祥寺でしか出会えないものももっとたくさんあったけど、今はチェーン店や大型店などがほとんどで、別に吉祥寺じゃなくてもよくなってしまっている。ここにしかないものがなくなってしまっているわけです。昔は面白い店があって、面白い人がいて、すごくオリジナリティーがあったけど、今はどこにでもあるお店が増えて交換可能な町になってしまった。

— 吉祥寺という町本来の魅力を取り戻し、地域を活性化するためにはやはりアートが一番有効というのか。

小川 いや、地域活性とあって正直アートではそれほどできないと思いますよ。直接的にはそんなに力はないと思う。ただ、住む人や訪れる人の視点を増やすことはできるかもしれない、ものごとのいろいろな側面を気付かせることが可能かもしれない。あと、アートプロジェクトを行うことによって人と人が出会うきっかけを作ることにはきっとできると思います。

— 小川さんにとってアートとは？

小川 物の見方を提示していくことや、視点をどんどん増やしていくことだと思います。世の中をいろんな方向から切り取る、世界を一つのものとして考えないで、見方によって全然違って見えるということを気付かせてくれるもの、そんなものなのかなと思います。

* 写真は全て、TERATOTERA 公式記録より提供